

双葉西小だより

令和3年 6月21日 文責 学校長 平塚 克人



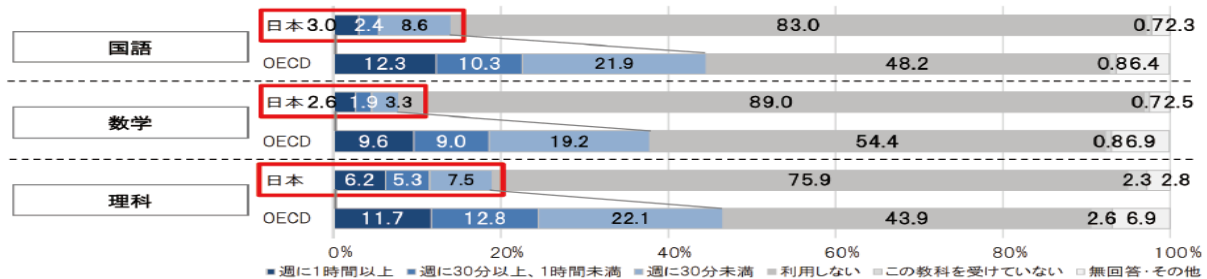
G I G Aスクール構想の実現へ

文部科学省の考え

多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現をという考えのもと、甲斐市内小中学校でも昨年度末までに校内通信ネットワークの整備と児童生徒1人1台端末の整備が行われました。文科省がこのような方針を打ち出した根拠は主に次の3点です。(文科省リーフレットより)

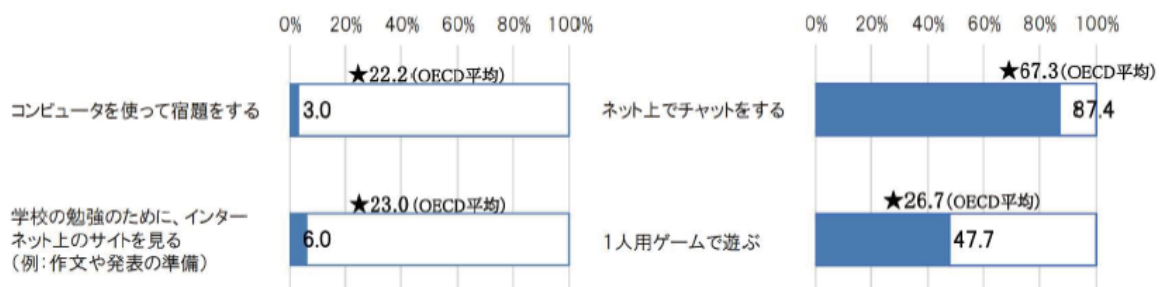
- ① 教育用コンピュータ1台あたりの児童生徒数(平成31年3月の調査値による)から、学校のICT環境整備状況は脆弱であるとともに、地域間での整備状況の格差が大きい。(全国平均値は、5.4人/台。最高1.9人/台〜最低7.5人/台。山梨県は4人強/台)
- ② 下のグラフの通り、学校の授業におけるデジタル機器の使用時間はOECD加盟国で最下位である。

1週間のうち、教室の授業でデジタル機器を利用する時間



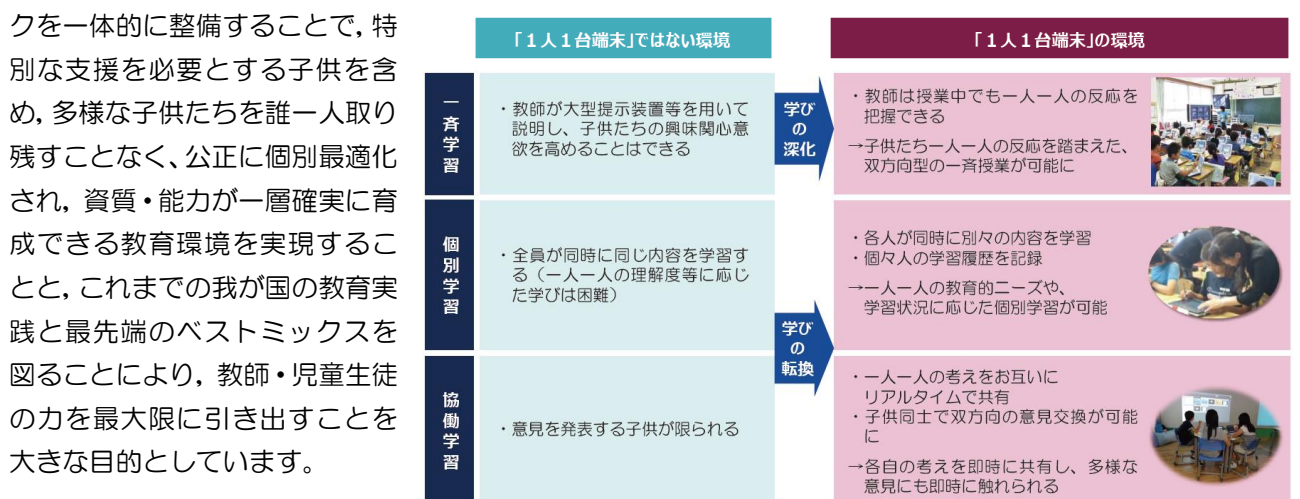
- ③ 下のグラフの通り、学校外でのICT利用は、学習面ではOECD平均以下、学習外ではOECD平均以上である。

学校外での平日のデジタル機器の利用状況 (青色帯は日本の、★はOECD平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計)



(出典: OECD生徒の学習到達度調査 (PISA2018) 「ICT活用調査」)

そこで打ち出されましたのがG I G Aスクール構想です。1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現すること、これまでの我が国の教育実践と最先端のベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すことを大きな目的としています。



子供たちにとってタブレットは 魅力無限大の玉手箱！！

遅ればせながら本校でも今月17日（木）に全学年でのギガ授業開きが行われました。子供たちが初めて学校のタブレット（卒業時まで自分のものとして使います）を手にした時のニンマリとした顔、ログインしたときに自分の名前が表示された瞬間の喜びの顔、カメラ機能で自分の顔がモニターに映し出された時の驚きの顔…。わずか1時間ではありましたが、子供たちにとりましては、これから授業で使うことになるタブレットに無限大の魅力を感じたのではないのでしょうか。タブレットの導入にあたりまして、私たち教職員が学び、計画し、準備しなければならないことは決して容易なことではありません。しかし、子供たちの期待に応えるために、試行錯誤しながらではありますが実践を積み重ねて参ります。

今回のギガ授業開きで使いました資料の一部（情報教育主任作成）と子供たちの活動の様子をご覧ください。

つかってみよう タブレット	きょう やること 1.タブレットをつかうときのルールをおぼえよう。 2.タブレットに ログインしよう。 3.カメラを つかってみよう。 4.タブレットを ログアウトしよう。	カメラを つかってみよう。 	とった しゃしんを 見よう 
 2021/06/17	 2021/06/17	 2021/06/17	 2021/06/17
 2021/06/17	 2021/06/17	 2021/06/17	 2021/06/17
 2021/06/17	 2021/06/17	 2021/06/17	 2021/06/17
 2021/06/17	 2021/06/17	 2021/06/17	 2021/06/17